

■里見甫 孫文と出会い、大陸で新聞の編集発行人となつて裏人脈を形成、関東軍の手先として“阿片王”に至る。

さとみはじめ

白馬会・・・1896＝九州の小倉で、元海軍軍医で日清戦争従軍後退役し開業した里見乙三郎の長男に生まれる。母はスミ。

父が筑豊炭鉱地帯を見て回る診察医だったことから、母子家庭のように育ち、

日露戦争終・・・1905＝9歳：

小学校高等科に進む直前、父の仕事の関係で、福岡に移住。

伊藤博文暗殺1909＝13歳：

福岡県立中学修猷館に入学、

この間、母が死去。

明治天皇没・・・1912＝16歳：

大正政変・・・1913＝17歳：

来校した孫文を歓迎する柔道の模範試合で抜群の成績を挙げ、孫文に注目されるとともに、上海の東亜同文書院への入学を勧められる。修猷館を成績ビリでの卒業であつたため、玄洋社第二代社長進藤喜平太に頼み込み、福岡市派遣留学生となつて、東亜同文書院に入学。柔道の強さなどで一目置かれ、

第一次大戦始1914＝18歳：

21ヶ条要求・・・1915＝19歳：

民本主義・・・1916＝20歳：

上海共同租界の役所の若手職員に柔道指南することになり、往復道中に女遊びもするようになる。恒例の卒業旅行に、太原・延安・西安回る大旅行をして自らの進むべき方向を見出したつもりで、ギリギリで卒業するや、紹介された青島の貿易会社に勤務するが倒産してしまい、帰国。東京で雑役仕事して食いつなぎ、

本格政党内閣1918＝22歳：

べルシヤ条約・・・1919＝23歳：

同文書院の後輩頭山満の子立助を訪ね、後輩中山優が朝日新聞に入社し、会いたいということを知り、頭山に連れられ中山に会い、その計らいで、天津の邦字紙[京津日日新聞]の記者となる。編集長一人しかいなくて、ほとんどの仕事を夢中でこなすうち、支那語も飛躍的に向上、

原敬首相暗殺1921＝25歳：

水平社結成・・・1922＝26歳：

関東大震災・・・1923＝27歳：

新来の天津総領事吉田茂(のち首相)に可愛がられ、入社してきた名文家橋樑らにも啓発され、*第一次奉天戦争に際して張作霖と単独会見するなど、スクープものにして、*[京津日日新聞]の北京版として創刊された北京新聞に送り込まれ、主幹兼編集長ほか全て一人という活動を通じて、部数を伸ばし、関東軍の板垣征四郎や石原莞爾と知己となり、国民党の郭沫若と親交、蒋介石との会見を行うなどして、国民党との人脈も形成。

治安維持法・・・1925＝29歳：

共産党事件・・・1928＝32歳：

孫文死去の報に衝撃受けるも、新聞全面使う追悼号を作成し発行。済南事件では、日本軍の建川美次少将・原田熊吉少佐らから国民党との調停を依頼され、秘密工作の末、国民党側との協定文書の調印を取り付ける。満鉄南京事務所の嘱託となり南京に移ると、国民政府に対し満鉄の機関車売り込みに成功するなど華々しい業績をあげる。

満州事変・・・1931＝35歳：

満州事変が勃発すると、関東軍で対満政策を担当する司令部第4課の嘱託辞令を受けて奉天に移り、甘粕正彦と共に諜報・宣伝・宣撫活動を担当、中国の地下組織との人脈を形成。また、満州におけるナショナルエージェンシー設立工作に努め、陸軍省軍務局課長の鈴木貞一の協力のもと、新聞聯合社の岩永裕吉や古野伊之助、電通の光永星郎との交渉を行い、

五一五事件・・・1932＝36歳：

国際連盟脱退1933＝37歳：

帝人疑獄事件1934＝38歳：

満州の聯合と電通の通信網を統合した国策会社満州国通信社が設立され、初代主幹兼主筆に就任。結婚するもすぐ別居。聯合上海支局長松本重治に幹旋依頼して、ロイターとの通信提携契約を結ぶが、*旧知の神原政雄が奉天でしていたケシ栽培が取締まり対象になることを見越し、満州国に出向してきた板垣征四郎にかけあって、神原農場産アヘンすべてを関東軍調達にさせる。

芥川直木賞始1935＝39歳：

日中戦争始・・・1937＝41歳：

アヘン売買を取り仕切っていたとの関東軍土肥原賢二の意向で、天津の華字紙(庸報)の社長に転じる。上海に移り、参謀本部第8課課長の影佐禎昭から、中国の地下組織や関東軍との太い人脈と抜群の中国語力を見込まれ、陸軍特務部の楠本実隆大佐を通じた特務資金調達のための阿片売買を依頼される。

健保+総動員1938＝42歳：

阿片売買のために三井物産および興亜院主導で設置された宏済善堂の副理事長(社長)に就任。中国の地下組織青幫や紅幫なども連携し、上海でのアヘン密売を取り仕切る里見機関を設立。ベルシャ産や蒙古産の阿片の売買によって得た莫大な利益を関東軍の戦費に充て、一部は日本の傀儡であった汪兆銘政権に回す。また、関東軍が極秘に生産していた満州産阿片や日本軍が生産していた海南島産阿片も取り扱う。この活動を通じ、満州国の総務庁次長であった岸信介・古海忠之や興亜院の官僚であった愛知揆一らと知己となる一方、兒玉誉士夫・笹川良一らと地下人脈を形成。

日米開戦・・・1941＝45歳：

・・・1942＝46歳：

創価学会検挙1943＝47歳：

敗戦・・・1945＝49歳：

新憲法公布・・・1946＝50歳：

第二次大戦拡大でイランからのアヘン輸入が途絶。司令部と折り合わなくなった影佐がいなくなるとともに、立場が微妙になり、宏済善堂を辞し、満鉄と中華航空の顧問となる。その後もおアヘン取引の利権を握っていたが、*敗戦となり、帰国。京都や東京に潜伏するも、*民間人第一号のA級戦犯容疑者としてGHQにより逮捕され、巣鴨プリズンに入所。極東国際軍事裁判に出廷して証言して不起訴となり、無条件で釈放される。以後、隠遁生活。岸信介らA級戦犯が釈放されるも、直前に影佐が肺結核で死去。

極東裁判決・・・1948＝53歳：

朝鮮戦争始・・・1950＝54歳：

独立回復・・・1951＝55歳：

美智子妃・・・1959＝63歳：

安保闘争・・・1960＝64歳：

30年下の日本舞踊の師匠に惹かれ、名ばかりの夫婦だった妻と協議離婚し、再婚。

TV宇宙中継始1963＝67歳：

アヘン取引通じて無二の親友となつた古海忠之が19年の抑留生活を終えて無事帰国。

大学紛争始・・・1965＝69歳：

家族と歓談中に心臓麻痺に襲われ、没した。葬儀委員長は古海忠之で、墓碑銘岸信介元首相の揮毫。